

今年度のアンケート結果とこびーぬ反町ルームの取り組みについて、お伝えします。

保護者、スタッフの回答結果では、全体に「いいえ」は少なく、「はい」と答えない方の多くは、「どちらとも言えない」という回答が多かったのが、例年とは少し違ったところでした。その中で、どちらとも言えないの回答が多かったものについて考えました。

1. 障がいのない児童との交流

2. 保護者会などとの連携

でした。

1. について、地域との交流も考え、祭事に参加し、交流することも再開しました。イベントへの参加も、保護者様にお声かけをし、数名の方に見学していただきました。夏休みには、地域のボランティア協会にもご協力を頂き、ボランティアの方が来られる予定でしたが、コロナの状況が悪化したことで、中止となりました。状況を見ながら再度ボランティアの受け入れも考えていきます。

先日のハロウィンのイベントでは、施設内での開催と、お声かけを頂き、地域のイベントにも参加しました。車椅子の子供たちの参加は、他では見られませんでした。

障がい児童以外のお子さんとゲームをしたり、声をかけたり、笑顔の場面が多くみられました。

障がいがあるがなかろうが、同じように生きている。

地域の方には、だいぶ施設のことを知っていただけるようにはなってきましたが、

今後も積極的にイベントの参加や交流を進めていきたいと思えます。

2. についてまた少ない回答ですが、以下も施設として情報として受け止め進めているところです。

室内の環境については、猛暑やコロナ禍という状況もあり、室内で活動することが多かったため、十分なスペースをとることができないこともありました。近くに公園等もあるので、状況が良くなれば、外での活動も再開していく予定です。

活動プログラムについては、適正という声も多く、支援計画に沿った支援の内容の向上を図る取り組みもしています。

例えば、業務に入る前に支援計画を確認し、支援内容に沿った支援をし、評価を連絡帳に記載していく、直接お伝えしていくなどを行っています。

毎年同じことが問題になり、施設としても、改善、どよりよくはしていますが、スタッフの配置については、なかなか思うように進まないのが現状です。

「放課後等デイサービス」、「障がい児」というワードは、関係のある方々には周知されていますがひとたび別の場所でお伝えすると、知らない方がたくさんおられます。

7年前よりこの状況に対してもいろいろなアプローチで活動しています。まだまだなようです。

これは、施設だけの力では到底及ばず、国、市町村の行政にも力を入れていただきたいと切に願います。

まず、「知る」ことから、そして、「関わること」へ

共通認識をもち、お子さんご家族を支えていくこともスタッフを増員の一目となるのではないかと考えています。

